

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	c		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。観光と地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化についての事例研究を行う。地域の観光資源調査（フィールドワーク）を実施準備を行い、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティングやマネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

- ガイダンス
- 観光による地方創生①
- 観光による地方創生②
- 観光による地方創生③
- 観光による地方創生④
- 観光地と地方創生⑤
- 観光地のブランド化①
- 観光地のブランド化②
- 観光地のブランド化③
- フィールドワーク準備①
- フィールドワーク準備②
- フィールドワーク準備③
- フィールドワーク準備④
- フィールドワーク準備⑤
- まとめ

授業の方法

課題テーマについてリサーチとプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、課題30%、プレゼンテーション20%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

適時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版

留意事項

演習は自主性、積極性が求められる。
フィールドワークへの参加は必須である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- | | | |
|--------------------|----|--------|
| 1 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 2 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 3 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 4 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 5 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 6 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 7 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 8 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 9 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 10 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 11 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 12 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 13 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 14 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 15 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。
また、文学作品に描かれた文化内容を考察するため、担当教員による文学作品の講読を行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

万城目学『梧浄出立』（2017年、新潮文庫、490円）

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

私たちの社会生活の中でことばによるコミュニケーションは欠かせないものであり、世界のあらゆる言語はその土地の文化や現代社会の課題などとも深く関わっています。ことばのあり方を探ることによって、社会や文化のあらゆる側面を探ります。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（国際性）とI（知性）を養う。

授業の概要

言語と文化を中核として社会言語学とコミュニケーション論を基礎として学ぶ。授業では幅広く分野を取り扱い、言語（英語及び日本語）/文化/社会について幅広く興味に応じて対応する。授業は学生主体で行い、調査や分析方法を学びながらプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を行う。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 発表とディスカッション
夏休み期間に学習した内容について発表する。
- 3 参考文献を用いたディスカッション
- 4 参考文献を用いたディスカッション
- 5 参考文献を用いたディスカッション
- 6 参考文献を用いたディスカッション
- 7 参考文献を用いたディスカッション
- 8 参考文献を用いたディスカッション
- 9 参考文献を用いたディスカッション
- 10 参考文献を用いたディスカッション
- 11 参考文献を用いたディスカッション
- 12 参考文献を用いたディスカッション
- 13 参考文献を用いたディスカッション
- 14 参考文献を用いたディスカッション
- 15 個人課題の発表・ディスカッション

授業の方法

それぞれの興味関心について授業で取り扱い、発表とディスカッションを行う。学生の主体的な授業参加が必要となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

評価は出席30%、発表30%、授業態度20%、課題20%とする。

欠席について

規定の通りとする。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。観光と地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表準備を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化についての事例研究を行う。地域の観光資源調査（フィールドワーク）を実施し、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティング&マネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 フィールドワーク調査確認
- 3 フィールドワーク①
- 4 フィールドワーク②
- 5 フィールドワークの調査結果のまとめ①
- 6 フィールドワークの調査結果まとめ②
- 7 フィールドワーク調査結果まとめ③
- 8 フィールドワークの報告書作成①
- 9 フィールドワークの報告書作成②
- 10 フィールドワーク報告会
- 11 フィールドワークのまとめ
- 12 個人課題の研究発表と討論
- 13 個人課題の研究発表と討論
- 14 個人課題の研究発表と討論
- 15 まとめ

授業の方法

フィールドワークの調査及び報告書の作成とプレゼンテーションを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、課題30%、プレゼンテーション20%

欠席について

大学規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版

留意事項

演習には自主性及び積極性が求められる。フィールドワークの参加は必須である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容より、英米文学をより正確に深く読み取れるよう、日々、英米文学作品に親しむ。
さらに、各自が定めたテーマについて、より適切な書籍や論文等の資料を収集し、丁寧に調査を行い、論の裏付けとなる根拠やデータを明確にして、論理的に文章として表現することを目指す。かつ、聴き手が正確に理解できるような研究発表ができるよう、発表の演習も行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰ、Ⅱで学んだ基礎力をもとに、各自が決定した研究のための資料、データ、先行論文等を調査、分析を行い、授業内において、各自が作成した論文を発表し、それについてゼミの全員でディスカッションを行う。
また、昨年に続き、英米文学やエッセイなどの原書や時事ニュースを読解することにより、英語力の向上を図る。毎授業において、発表とディスカッションを行うので、授業準備を万全に行うことが必須である。

授業計画

- 1 イントロダクション
卒業研究について発表する。
- 2 課題の発表
- 3 課題の発表
- 4 課題の発表
- 5 課題の発表
- 6 課題の発表
- 7 課題の発表
- 8 課題の発表
- 9 課題の発表
- 10 課題の発表
- 11 課題の発表
- 12 課題の発表
- 13 課題の発表
- 14 課題の発表
- 15 最終発表を行う。

まとめ

授業の方法

個人研究の発表とディスカッションを中心に行う。
発表毎にレポートを提出する。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 30%、発表 40%、レポート 30%
課題、発表のフィードバックは授業中に行う。レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

出席を重視する。欠席1回について平常点より4点減点する。
規定に従う。

テキスト

ハンドアウトを使用する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加し、発表と毎回のレポート提出が必須である。
出席を重視する。
平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

- 1 ガイダンスと個人研究の進め方
- 2 個人研究テーマの発表
- 3 個人研究発表とディスカッション
- 4 個人研究発表とディスカッション
- 5 個人研究発表とディスカッション
- 6 個人研究発表とディスカッション
- 7 個人研究発表とディスカッション
- 8 個人研究発表とディスカッション
- 9 個人研究発表とディスカッション
- 10 個人研究発表とディスカッション
- 11 個人研究発表とディスカッション
- 12 個人研究発表とディスカッション
- 13 個人研究発表とディスカッション
- 14 個人研究発表とディスカッション
- 15 まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

- 1 ガイダンスと卒業研究進行状況報告
- 2 個人研究発表とディスカッション
- 3 個人研究発表とディスカッション
- 4 個人研究発表とディスカッション
- 5 個人研究発表とディスカッション
- 6 個人研究発表とディスカッション
- 7 個人研究発表とディスカッション
- 8 個人研究発表とディスカッション
- 9 個人研究発表とディスカッション
- 10 個人研究発表とディスカッション
- 11 個人研究発表とディスカッション
- 12 個人研究発表とディスカッション
- 13 個人研究発表とディスカッション
- 14 個人研究発表とディスカッション
- 15 まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- 1 イントロダクション
- 2 第三章原稿発表。
- 3 The Unquiet Graves: The Picture
- 4 教員からの添削をもとに1章を完成する。
- 5 The Unquiet Graves: Rats
- 6 The Unquiet Graves: The Casting Runes
- 7 教員からの添削をもとに2章を完成する。
- 8 The Unquiet Graves: The Experiment
- 9 The Unquiet Graves: "Oh, Whistle, Come to You, My Boy"
- 10 教員からの添削をもとに3章を完成する。
- 11 教員からの添削をもとに序章を完成する。
- 12 教員からの添削をもとに結論を完成する。
- 13 教員からの添削をもとに全体の推敲を確認する。
- 14 I, Robot: Catch That Rabbit
- 15 I, Robot: The Liar

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70%、レポート20%。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光地理論			13840	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

旅行地理の基礎と国内外の観光・歴史・宗教・文化に関する知識を学び、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

日本及び海外の観光地における地理とその地域における観光資源、文化歴史などについて深く学ぶ。各地域の観光地としての価値や地域伝統の継承などについて資料を基に解説を行う。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 北海道
- 3 東北地方
- 4 関東地方
- 5 中部地方
- 6 関西地方
- 7 中四国地方
- 8 九州・沖縄地方
- 9 アジア
- 10 ヨーロッパ①
- 11 ヨーロッパ②
- 12 南北アメリカ
- 13 オセアニア
- 14 中東・アフリカ
- 15 まとめと試験

授業の方法

テキスト及び配布資料を基にアクティブラーニングを行い、講義を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、課題20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り

テキスト

国内旅行地理 プラクティカル (JTB能力開発)
海外旅行地理 プラクティカル (JTB能力開発)

参考図書

講義内で案内します

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
環境ツーリズム論			13430	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

国連は2017年「開発のための持続可能な観光の国際年」と定めた。「持続可能な観光」について学び、グローバル社会における観光と環境に関する課題について考える。また世界的な認証である「サステイナブルツーリズム国際認証」について学び、自然環境と観光を融合した「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」などについての理解を深めることを目的とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

授業の概要

国連の「持続可能な開発目標（SDG's）」は2016年から2030年までの世界全体の開発目標（持続可能な開発のための2030アジェンダ）であり、この目標は観光においても例外ではない。2017年国連が「開発のための持続可能な観光の国際年」に指定するなど、現在「サステナビリティ（持続可能性）」が世界共通のキーワードとなっている。世界の観光旅行人口は約13億人を超え、多くの人が世界各地の観光地を訪れている。その中でいかに自然環境を守りつつ、観光を持続的に発展させていくのかを学ぶ。講義では主に「サステイナブルツーリズム」、「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」について学び、自然環境と共存し持続可能なツーリズムの仕組みについて事例を通して理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 SDG'sと「持続可能な開発のための2030アジェンダ」について
- 3 サステイナブルツーリズムと国際認証について
- 4 サステイナブルツーリズムの事例と課題
- 5 エコツーリズムについて（エコツーリズム推進法）
- 6 エコツーリズムの事例と課題①（国内）
- 7 エコツーリズムの事例と課題②（海外）
- 8 グリーンツーリズムについて
- 9 グリーンツーリズムの事例と課題①（国内）
- 10 グリーンツーリズムの事例と課題②（海外）
- 11 国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化
- 12 ジオパークとジオツーリズム
- 13 観光におけるシェアリングエコノミーについて
- 14 オーバーツーリズムについて

15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『サステナブルツーリズム』 藤稿亜矢子著 晃洋書房
『SDG'sの実践』自治体・地域活性化編 村上周三他著 宣伝会議
『外国人が熱狂するクールな田舎の作り方』 山田拓 新潮新書
『楽しもう！エコツーリズム』 風見信昭著 秀明出版会
『MaaS モビリティ改革の先にある全産業のゲームチェンジ』 日高洋祐編著 日経BP社

留意事項

アクティブラーニングを中心とするので積極的な講義への取り組みを求める。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光事業総論			13431	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行業			

授業の到達目標

観光は、観光行政（官）と観光産業（民）で構成される。これらを合わせて観光事業である。観光を推進し、地域を活性化させる政策とはどのようなものかを把握する。観光政策の歴史や観光立国への取り組みを理解し、課題を見つけることが目標である。また、産業としての観光事業を各業界別に理解し、未来を展望する。観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。この講義は観光概論を発展させ、より深く探求する。このクラスは、KAISEI パートナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光概論に続く講義である。観光とは何か。その成り立ちと観光について具体的に解説する。特に観光行政における政策に重点を置き、観光産業との2分野を中心に学修する。具体的には、国家戦略としての観光事業を法整備の観点から理解し、観光を支える宿泊業、旅行業、航空業等の役割と戦略を理解し、グローバル社会での観光の問題を全体のテーマとする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 観光事業の変遷
- 3 観光事業の現状と課題
- 4 観光政策①（観光立国）
- 5 観光政策②（観光基本法）
- 6 観光政策③（DMO）
- 7 海外の観光政策①（欧米）
- 8 海外の観光政策②（アジア）
- 9 旅行事業
- 10 宿泊事業
- 11 航空事業
- 12 IR事業
- 13 テーマパーク事業
- 14 地域の観光事業
- 15 まとめ

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグルー

プに分け課題に対し意見交換し、発表を行う。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点20%、課題30%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『入門 観光学』竹内正人編著 ミネルヴァ書房
『現代の観光事業』北川 宗忠著 ミネルヴァ書房
『1からの観光事業論』高橋一夫著 碩学舎

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			13432	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

ユネスコ世界遺産の理念と登録制度について学ぶ。また観光地として人気の高い国内及び海外の世界遺産を取り上げて、世界遺産の歴史や観光地としての価値について理解することを目指す。このクラスではKAISEI パートナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

世界遺産がもたらす経済効果と遺産保護との課題について考察を行う。1972年のユネスコ総会で採択された世界遺産条約の中で定義された世界遺産について、その条約の理念と登録制度について学ぶ。また、国内及び海外の主な世界遺産に関して、「文化遺産」と「自然遺産」に分けて、その歴史や登録後の保存に関する課題や観光地としての価値と課題についてグループワークを通して理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 世界遺産条約と登録制度
- 3 文化的景観について
- 4 日本の文化遺産①
- 5 日本の文化遺産②
- 6 日本の文化遺産③
- 7 海外の文化遺産①
- 8 海外の文化遺産②
- 9 海外の文化遺産③
- 10 自然遺産の分類と特徴
- 11 自然遺産①（国内）
- 12 自然遺産②（海外）
- 13 危機遺産・負の遺産
- 14 トランスパウンダリー・サイトとシリアル・ノミネーションについて
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

『くわしく学ぶ世界遺産300』世界遺産検定事務局著 マイナビ出版

参考図書

『世界文化遺産の思想』西村幸夫著 東京大学出版会
『世界遺産ビジネス』木曾功著 小学館新書

留意事項

世界遺産検定2級・3級の取得を推奨する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスの最前線を体系的に学び、観光産業の基礎と実務を学ぶ。2019年に3,200万人を超えた訪日外国人観光旅行（インバウンド）ビジネスや2025年に開催される大阪万博などのメガイベントでの観光業の実務について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスの変遷について解説し、最前線の観光ビジネスについて事例を取り上げて理解を深める。観光分野の主要産業である旅行・宿泊・航空（交通）についての実務を学ぶ。また観光ビジネスで注目分野であるインバウンド・ビジネス（訪日外国人旅行）について、地域との連携や課題について学ぶ。また、オリンピック、マラソンなどスポーツイベントにおけるMICEビジネスについて観光産業が携わる実務について解説し、グループワークを通して理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 観光ビジネスの変遷について(マスツーリズムからの脱却)
- 3 旅行業ビジネス①
- 4 旅行業ビジネス②
- 5 旅行業法・約款、景品表示法等
- 6 宿泊業ビジネス
- 7 航空業ビジネス
- 8 交通事業ビジネス
- 9 MICEビジネス①
- 10 MICEビジネス②
- 11 スポーツツーリズム
- 12 インバウンドビジネス①
- 13 インバウンドビジネス②
- 14 地域創生と観光ビジネス
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『世界一訪れたい日本のつくりかた』デービッド・アトキンソン著
東洋経済新報社
『CSV観光ビジネス』藤野公孝編著 学芸出版社
『スポーツマーケティング』原田宗彦編著 大修館書店

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認すること。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			13440	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊事業実務			

授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。社会はますますグローバル化が加速している。企業が生まれ、成長し、発展していくが、その企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。社会に貢献できる企業とは。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献など営利目的以外にも焦点を当て企業を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A) 自律と(In) 国際性を養う。

授業の概要

企業の仕組みを深く知ることから始まる。各業界における市場環境はどのようになっているのか。企業が生き残るためのリスクとは何か。研究対象の企業は、成長分野であるのか、衰退するなのか、差別化はできているのかなどをポイントに分析をする。講義の主な業種はホスピタリティ産業から金融、製造業など様々な企業を対象とする。有価証券報告書を参考に同業種や他産業の比較の中で、企業の姿を理解していく。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 株式会社と株式市場
- 3 企業と市場環境
- 4 企業研究(製造業・金融業)
- 5 企業研究(製造業・金融業)
- 6 企業研究(製造業・金融業)
- 7 企業研究の発表
- 8 企業研究の発表
- 9 前半のまとめ
企業研究の要点
- 10 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 11 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 12 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 13 企業研究の発表
- 14 企業研究の発表
- 15 後半のまとめ
企業研究と発表
- 16

授業の方法

講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。発表はPowerPointでおこなう。

準備学修

授業前の1週間の日経新聞の企業活動をよく読み、社会に関心を持つこと。
授業で注目した企業を紹介する。

課題・評価方法、その他

学生が注目した企業について教員がコメント・フィードバックを行う。
評価基準は課題レポート(70%)と発表(30%)

欠席について

規定通り

テキスト

日経業界地図(日経出版社)

参考図書

会社四季報

留意事項

適宜アドバイスする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海外ツーリズム研修			13445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

海外ツーリズム研修では以下の4点を現地体験することを目標とする。

1. 訪問地での観光資源（特に世界遺産）と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
2. 旅行会社での海外支店業務を現地支店訪問で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
3. グループワーク課題を実践する。
4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。（総合旅程管理主任者資格の取得）

このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）、S（奉仕）、In（国際性）を養う

授業の概要

春休みの1週間を利用して海外の観光地を訪問し、現地のツーリズムについて実体験する。またそれぞれの現地文化を学び異文化理解を促進することを目的とする。現地では旅行会社の協力を得ながらホテル視察、観光資源の体験、現地企業の実情視察などを行う。また研修参加者はグループワークを実践し役割分担によって空港視察、添乗員業務、行程管理、現地観光資源などを現地体験する。また旅程管理研修（3日間）を受講する必要がある、終了テストに合格する必要がある。

授業計画

- 1 オリエンテーション・事前準備の確認
- 2 事前研修・訪問地の世界遺産などの地域観光資源研究
- 3 旅程管理研修①
- 4 旅程管理研修②
- 5 旅程管理研修③
- 6 実地研修1日目：関空出発～目的地
- 7 実地研修2日目：ホテル研修・現地旅行会社訪問他
- 8 実地研修3日目：研修地でのエコツーリズム・世界遺産訪問・異文化体験他
- 9 実地研修4日目：研修地の移動
- 10 実地研修5日目：ホテル研修・現地旅行会社訪問他
- 11 実地研修6日目：日系企業訪問
- 12 実地研修7日目：帰路の空港見学・帰国
- 13 現地でのグループワークの事後発表の準備

- 14 現地でのグループワークの事後発表
- 15 全体の研修での課題点の洗い出し・まとめ

授業の方法

研修前に訪問地の歴史・自然・文化・観光資源などを事前研究する。また旅程管理研修の講義を受け、試験に合格する必要がある、研修中は行程管理・空港見学・機内サービスの現地体験を含めグループワーク課題を実践する。

準備学修

事前研修で訪問地の歴史・自然・文化・観光資源を地域研究として政府・州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。

課題・評価方法、その他

事前研修、海外研修の総合評価。

欠席について

事前研修は参加登録者全員が受講すること。参加登録者は研修旅行当日の病気などによる正当な事由がない限り欠席はできない。

テキスト

総合旅程管理主任者テキスト（受講者に事前説明有り）

参考図書

事前研修時に適宜指示する。

留意事項

受講生に対して、事前説明会を実施する。資格講座（ツアーコンダクター）と海外実習を受講する必要がある。本講座は費用が発生するので途中での辞退はできない。尚、研修旅費の高騰、安全面など諸般の事情で研修先が変更又は中止になる事がある。また研修実施には最少催行人員（10名）の規定が適用される。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ツーリズム実務特論			13450	Ⅱ/Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	1	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光業界は大きな転換期を迎えており、新しいビジネスモデルが日々創出されている。現在、観光業はコロナウイルスの影響を受け、新たな事業収益を創造している。また2025年には大阪万博やIR事業の開設などを控えて、観光産業は大きなビジネスチャンスが到来している。各分野の第一線で活躍しているビジネスパーソン講師から事業現場の話聞き、課題を発見し、解決策を見出すことを目標とする。このクラスはKAISEI パーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

授業の概要

本講義は、観光分野のプロフェッショナルの外部講師による講演を中心に、各分野で活躍する講師には旅行、ホテル、航空会社、観光局（DMO）などから招き、現場の最前線での仕事内容や課題などについて学ぶ。各講義前には登壇する講師の業界について調査し、講義後「気づきや学び」をレポートとして提出する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 講義①
- 3 講義②
- 4 講義③
- 5 講義④
- 6 講義⑤
- 7 講義⑥
- 8 まとめと試験

授業の方法

外部講師による講義を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求める。

評価は平常点50％・課題レポート50％

欠席について

学則の通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

外部講師による講義の為、講義中の態度・服装には留意すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			13830	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って積極的に行動できる人材が求められている。異文化を理解し、自文化が発信できる人材の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を身につける。

授業の概要

本授業では、日本と日本を取り巻くグローバル社会の文化を比較し、歴史的、風土的、地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

- 1 <人魚>をテーマに、アンデルセン(ヨーロッパ)・ディズニー(アメリカ)・小川未明(日本)の表現の違いを考察する
- 2 <民話>をテーマに、南洋諸島と戦前の日本委任統治の歴史的背景を考察する
- 3 <怪談>をテーマに、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が描いた日本を考察する
- 4 <絵本>、<人形>をテーマに、物語に託されたそれぞれの国の文化的背景を考察する
- 5 <移民>をテーマに、日本からのブラジル移民に注目し、当時の政府の政策と神戸港の対応を考察する
- 6 <MANGA>をテーマに、日本の漫画の発展と世界進出について考察する
- 7 <レビュー>をテーマに、宝塚歌劇におけるフランスのレビューの影響を考察する
- 8 <留学>をテーマに、森鷗外「舞姫」に描かれた、明治初期のドイツと日本の社会状況の相違について考察する
- 9 宝塚歌劇「MAIHIME」を考察する。(原作:森鷗外「舞姫」)
- 10 塩野七生「小説 イタリア・ルネサンス 1 ヴェネチア」に描かれた、イタリアとトルコの文化背景の違いを考察する
- 11 宝塚歌劇「ヴェネチアの紋章」を考察する。(原作:塩野七生「小説 イタリア・ルネサンス 1」ヴェネチア)
- 12 プレゼンテーション 発表授業
- 13 プレゼンテーション 発表授業

14 プレゼンテーション 発表授業

15 <ディズニー映画>に注目し、アメリカが描く東アジアについて考察する。

授業の方法

教員の講義と学生のプレゼンテーションとによる参加型授業

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を義務づける。提出されたノートは、教員が指導してフィードバックする。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)により評価する。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ(国内)			13969	Ⅱ	春	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

将来、観光関連企業(旅行会社・ホテル・観光局など)及その他の企業に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。インターンシップ参加に際してのエントリーシート作成、業界研究や企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS(奉仕)とA(自立)を養う。

授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験(インターンシップ)及び体験発表からなる。事前研修では業界研究や企業コンプライアンスなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。またインターンシップ参加へのエントリーシート作成を行う。就業体験は夏休みに実施され、インターンシップ期間は受け入れ先により5日~2週間となる。尚、体験発表は10月上旬(秋学期・土曜日)に実施する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 業界研究
- 3 企業研究
- 4 エントリーシート作成(自己PR)
- 5 インターンシップの目標設定
- 6 就業体験①
- 7 就業体験②
- 8 就業体験③
- 9 就業体験④
- 10 就業体験⑤
- 11 就業体験発表

授業の方法

グループワークを中心とした講義と就業体験及びプレゼンテーションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題は就業体験レポートとプレゼンテーション
評価は平常点30%、就業体験50%、プレゼンテーション20%
就業体験は5日間で35時間とする。

欠席について

事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。
就業体験欠席者は単位認定されない。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

講義内で紹介する。

留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業が対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。学生自身が就業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。(最低5日間の就業体験が必要)
大学がインターンシップ先を提供できない場合がある。履修者が30名を超えた場合は抽選とするので、第1回目オリエンテーションは必ず参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。